



エリア9 石見海岸西部

石見は山国です。山は海岸に迫り、平地は多くありません。その中で高津川・益田川下流の益田市や、周布川下流の浜田市には大規模な前方後円墳が見られます。益田市の大元一号墳・スクモ塚古墳・小丸山古墳は、いずれも益田川東岸地域にある大型古墳です。三角縁神鏡を出土した四ツ塚古墳も知られており、古墳時代初期ころから、大豪族が次々と古墳を築いていたことがわかります。

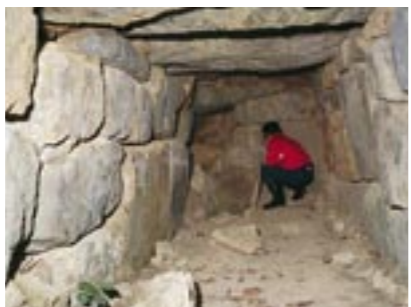
浜田市の周布古墳は、石見中央部で最大の古墳です。これと同規模の古墳は周辺では知られておらず、益田川東岸地域とは異なる展開を示しています。

「おむすび」の大型古墳は、古墳時代前半の四〜五世紀に最大規模のもので造られており、六世紀に最大の古墳が造られた出雲とは古墳文化の展開に際立った違いが見られます。



1 周布古墳 国指定
浜田市治和町

きれいな前方後円墳。石見中央部最大の前方後円墳で、復元すると全長七二メートルに及びます。墳丘は二段築成で、表面には青石と円筒埴輪を備えています。発掘調査は行われていませんが、墳丘の形から五世紀のものと推定されます。なお周布古墳の東北には、めんぐる古墳があり、県内最古の横穴式石室と数々の副葬品が知られています。



2 片山古墳 市指定
浜田市下府町

明治時代、英国人が測量たとされる。浜田市下府町の平野を見下ろす斜面にあります。横穴式石室は羨道と玄室の区別がない形態をとり、切石造りと思われる終末期のもので、明治時代に英国人ガウランドにより測量が行われています。古墳の南西には奈良時代の下府廃寺があり、その関連も注目されています。



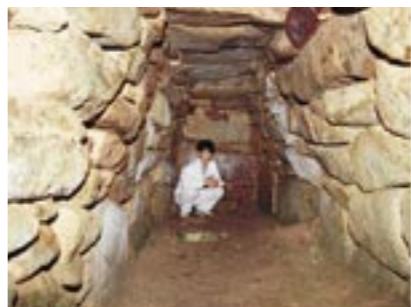
3 鶏ノ鼻古墳群 県指定
益田市蓮田町

石見最大級の群集墳



日本海に突出した標高四〇メートルあまりの台地上に、横穴式石室を持った小さな古墳が多数造られています。もとは五〇基以上はあったとされていますが、開発により消滅したのもも多く、その一部が現在保存されています。

石室は、細長い玄室に羨道が片側に寄せてつく、片袖式の平面形をとっているものが大半で、奥壁上部には側壁と奥壁に石を三角形に架け渡した「三角持送り」という特徴的な構造を持つものもあります。出土品の多くはすでに失われていますが、わずかに伝わるものの中には、「単龍環頭大刀」のような優品も含まれています。



横穴式石室を持つ群集墳

3 順庵原1号墓 県指定
邑智郡瑞穂町上龜谷

初めて発見された四隅突出型墳丘墓

一九六九年、国道二二一号線工事に伴う発掘調査を行っていた門脇俊彦氏(故人)は、四隅が突出した異様な形をしたお墓を見つけた。これが山陰を中心に弥生時代後期に盛んに造られた墳墓「四隅突出型墳丘墓」の発見です。埋葬施設は箱式石棺を中心に三基確認され、突出部が小さいのが特徴です。

4 割田古墳 県指定
邑智郡石見町中野

中国山地に多い無袖式横穴式石室に伴い調査された古墳です。中国山地に分布する横穴式石室は、入口から奥壁まで直線的につながった無袖式の石室が多いのが特徴ですが、この古墳はその典型例と言えます。県指定史跡として、保存されているので、中国山地の「無袖式横穴式石室」の様子をよく見ることができま。

5 中山古墳群
邑智郡石見町中野

石見最大級の古墳群

石見地方山間部では珍しく、総数八〇数基からなる古墳群です。一九七七年の発掘調査では全国的にも類例が少ない「方形板葺短甲」を出土した前方後方墳をはじめ、石棺や木棺などが多数発見されています。これらの一部は弥生時代に造られているものもあって、石見町の歴史を語るうえで欠かせない古墳群と言えます。

6 牛塚1号墳
邑智郡瑞穂町上龜谷

胸張りのある無袖式横穴式石室

割田古墳と同様に中国山地に多い「無袖式横穴式石室」を持つ古墳で、石室の入口から奥壁まで保存状態は良好です。この石室は胸張り、すなわち中央部が奥壁や入口より幅が広くなっているのが特徴で、画一的に見えるこのタイプの石室にも個性があることがわかります。

7 やつおもて古墳群
那賀郡旭町重富

古墳時代中期後半から後期にかけて営まれた、二四基の古墳よりなる古墳群です。このうち一九九〇年に調査された一八号墳は、全長二八メートルと、石見山間部では最大の古墳です。また、古くから開口している九号墳は無袖式の横穴式石室で、後期に造られたものの多くが横穴式石室を持つことが予想されます。

